

第77回 全日本バレーボール高等学校選手権大会 愛知県予選会

男子優勝チーム 星城高等学校



竹内裕幸監督のコメント

決勝を振り返って今の気持ちを聞かせてください。

三年生のためにというテーマでチームをずっと作ってきたのですが、二年生がよく踏ん張ってくれました。三年生の思いがものすごく詰まったゲームになりました。

総体での敗戦後に対大同の対策はなにかされましたか？

大同の子たちは非常にテクニクのあるミスが少ないチームだったので、まずはミス減らすこと。ミス減らすことによって、小さいこじんまりとしたバレーボールになるのではなく、星城高校の先輩たちから引き継いでいるダイナミックさ、躍動感を大切にしながら、勝負どころはしっかりと飛んでしっかり叩くということもテーマに置きながら、ミスの少ない展開を作れるようにと頑張ってきました。

途中でセッターを交代させたのはなぜですか？

技術的・精神的には一年生の方がすこし肝が据わっていることもあり、初の起用でしたがまあそこいけるかなと。父親がうちの卒業生で、生まれた時からこのチームを見ているので心配はなかった。三年生の松尾の方がブロックや高さのあるダイナミックさは持っているので、今日どちらがうまく機能するかを見極めて、ブロックよりもストワーク、柏崎の本数をちょっと減らしたくて散らしました。

全国大会への意気込みを聞かせてください。

高校生の目標とする場所であり、三年生の子たちもバレーボールをやれる日数が増えたので、また思い入れが高まってくると思います。三年生の思いを大切にしながら少しでも応援してくれる方々が楽しめるような良いバレーをしたいです。

岩田龍樹主将のコメント

決勝を振り返って今の気持ちを聞かせてください。

勝負に勝ち切れたのはとても良かったです。今日の決勝戦まで色々なことがあり、チームの中でぶつかったこともあったのですが、最後は絶対に負けられないという三年生の思い、下級生が三年生を勝たせてあげようという思い、全員が“勝つ”という目標に向かって頑張り勝ち切ることができたので、色々な人に感謝の気持ちでいっぱいです。

春高とはどんな大会ですか？

どのチームも三年生は最後の大会。全員が挑戦者として向かってくる試合で一歩でも引いたら負けてしまう。絶対に引かず勝負し続けることを心がけます。

全国大会への意気込みを聞かせてください。

最後の大会を勝ち取ることができたので、春高でベスト8以上、センターコートを目指します。チーム全体で総力戦というのを心がけ、保護者や応援してくれる方々、指導者、選手全員がひとつの気持ちになり頑張ります。

